

## 魔女に託す(9)

地球の数百年〜数千年以上先の遠未来を考える時、先ずこの百年間の発達が招いてしまった温室効果ガスを増やした顛末の気候変動が、一時的でなく一段と危機的な環境を促進する心配となっていることだ。

魔女に託された使命は、先ず地球の蘇生、そして移住先。ヒントを求めて、宇宙に飛び出したのだった。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

その地球から、一縷の望みを秘めたような情報が届いた。

破壊されつつある生態系を助けてくれる「苔」の存在である。

### 苔が地球を救う

真空状態の宇宙空間に約9か月間さらした苔の孢子が、地上で問題なく発芽し成長したとの研究結果を、北海道大などの研究チームが発表した。強い紫外線や大きな温度差がある環境でも孢子が生き延びられることが示され、火星などを人間が住める環境にする「テラフォーミング（地球化）」に応用できる可能性がある。論文が米科学誌「アイサイエンス」に掲載された。

なお、その苔はヒメツリガネゴケという。

クマムシや細菌の一種である大麦の種子などは宇宙空間でも生存できることが分かっていたが、苔類で示されたのは初めてという。

この分野の大学教授ら専門家によれば、「苔は約5億年前、海から陸上に初めて進出した植物とされ、環境適応能力が高いが、宇宙空間で8割以上生き残ったのは驚きだ」



「苔が孢子状態で宇宙を旅できる可能性が示され、意義深い。苔が土となって他の植物が育つ素地になるため、テラフォーミングの第一歩となる可能性を秘めている。今後、宇宙空間で孢子をどうやって発芽・生育させるかが課題となる」とも云われている。

その苔は光合成を行い、大気中の二酸化炭素を吸収して酸素を供給し、かつ高い環境浄化能力を持った植物であることで知られる。特にミズゴケ類は、炭素を固定したまま泥炭として長期間大地に堆積するため、地球規模での温暖化抑制に大きく貢献して来ているという存在だ。

火星の緑化計画においても、極限環境で生存・繁殖できる苔の能力を活かして、砂漠のような火星地表を緑化し酸素を供給する能力が期待されるようになってきているという。

**苔の能力はやがて地球の助けとなる！**

その心強い知らせに、魔女はほっとしたが、人類の国境や民族や宗教など、さらに生物界の垣根を越えた一致協力に精出さねばならない時に分断状態になっている現状にやきもきするばかりであった。

ふと、前方に暗黒星雲？いや、回りに輝くリングがあるから巨大なブラックホールか？嫌なものに気が付いた。

(続く)